

大阪市立義務教育学校生野未来学園
令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は令和4年4月に小中5校が再編され、大阪市初の義務教育学校として新たに開校した。開校して3年が経過し、より充実した教育活動の実践に向けて挑戦を続けている。IKUNO未来科を主軸とする「教科横断的な視点を持った教育活動」「教育課程の編成」「地域と連携し、教育活動に必要な人材・資源の発掘」の3つについて、9年間を通した学びが可能な義務教育学校の強みを生かしたカリキュラムマネジメントを進めている。また、喫緊の課題である学力の向上に向けて、教科間の連携をさらに密にするとともに、基礎学力の定着やICTを活用した効率的な学習方法をさらに深化させるなど、より効果的な授業の構築を目指すべく、大阪市の教育振興基本計画の下、取り組みを進めていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・学力経年調査及び校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童・生徒の割合を81%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査における、前年度の不登校児童・生徒の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・学力経年調査及び校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童・生徒の割合を35%以上にする。
- ・小学校学力経年及び調査中学生チャレンジテストにおける国語および算数・数学の平均正答率の対全国比・対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。《前期課程》
- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を35%以上にする。《後期課程》
- ・学力経年調査及び校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・学力経年調査及び校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童・生徒の割合を81%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、前年度の不登校児童・生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ・異学年交流や少人数によるグループ活動をより多く取り入れて、集団における自分の個性や良さを再認識することにより、校内調査における「学校が楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答する児童・生徒の割合を85%以上にする。
- ・「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を77%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・学力経年調査及び校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童・生徒の割合を35%以上にする。
- ・小学校学力経年及び調査中学生チャレンジテストにおける国語および算数・数学の平均正答率の対全国比・対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。《前期課程》
- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を35%以上にする。《後期課程》
- ・学力経年調査及び校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60%以上にする。

学校園の年度目標

- ・「学校の授業はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を85%以上にする。
- ・「学校でその日に学習したことを、家庭で自分から進んで復習していますか（宿題は含まない）」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ・デジタル教材を活用した朝学習を週3回実施する。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

学校園の年度目標

- ・年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を72%以上にする。
- ・大学等と連携し、教職員の資質向上のため外部講師を招き研修会を開く。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

校内アンケートにおいて、「学校が楽しいと思えますか」という問いに肯定的な回答をした児童生徒の割合は、86.4%であり、3年連続で目標としている85%を上回った。学校が再編され4年目を迎える中で、児童生徒や教職員とのつながりが増えるとともに、児童生徒が安心して学校生活を過ごせていることが影響していると考えられる。引き続き、不登校やいじめに対しては、全校あげて組織的に取り組んでいく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

校内アンケートにおいて、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な回答をした児童生徒の割合は、41.1%となり、目標の35%を上回った。双方向の授業が着実に進んでいると考えられる。一方で、全国学力・学習状況調査や大阪市小学校学力経年調査、中学生チャレンジテスト等の学力検査では、全国や大阪市との開きが依然見られる。校内アンケートでの「学校の授業はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合は、88%と高い数値を示しているものの、「学校でその日に学習したことを、家庭で自分から進んで復習していますか（宿題は含まない）」に対しては、肯定的に回答している児童生徒の割合が60.8%となり、目標とする80%以上に遠く及んでいない現状がある。家庭学習の意欲を高める課題の工夫など、教員のより一層の努力が必要とされる。教員の指導力向上においては、大学教授を招いての研修会や教員相互授業参観等の取り組みを計画的に実施できた。

【学びを支える教育環境の充実】

本年度も引き続き研究校として、デジタル教材を活用した語彙力向上のための取り組みを、全9学年通して着実に実施した。その取り組みや教員のICTの活用を意識した授業づくりの成果もあり、端末の活用率が上がるとともに、校内アンケートでの「タブレットを使用して学習していますか」は88.9%、「タブレットを使った授業はわかりやすいですか」は88%となり、肯定的な回答をした児童生徒の割合が非常に高かった。引き続き積極的にICTを活用し、より効率的で効果的な授業づくりに邁進していく。

大阪市立義務教育学校生野未来学園
令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

| | |
|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【3つの最重要目標】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力経年調査及び校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童・生徒の割合を 81%以上にする。 ・令和 7 年度の校内調査における、前年度の不登校児童・生徒の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異学年交流や少人数によるグループ活動をより多く取り入れて、集団における自分の個性や良さを再認識することにより、校内調査における「学校が楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答する児童・生徒の割合を 85%以上にする。 ・「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 77%以上にする。 | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向 1、安全安心な教育環境の推進】</p> <p>避難訓練や防災訓練について、計画的に取り組むことで児童の防災・防犯の意識を高め、自分の身を守ろうとする意識を育てる。</p> <p>指標 避難訓練・防災訓練を学期に 1 回以上行う。</p> | C |
| <p>取組内容②【基本的な方向 1、安全安心な教育環境の推進】</p> <p>児童・生徒が自発的に楽しめる活動を多く設定し、活動する中で自分の良さを再認識できるように促す。</p> <p>指標 「学校が楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をする児童・生徒の割合を 85%以上にする。</p> | B |
| <p>取組内容③【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>自分で進路の可能性を広げられるように体験を通じた探究的な学習活動を多く設定し、キャリア教育の充実に積極的に取り組む。</p> <p>指標 「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 77%以上にする。</p> | B |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標について】

異学年交流や少人数によるグループ活動を取り入れ、集団における自分の個性や良さを再認することに努めた。その結果、校内調査における「学校が楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答する児童生徒の割合が、86%となり、目標の85%を達することができた。

「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合は82%に達し目標の77%を超えることができた。

【取組内容①】

1学期の最初に火災を想定した避難訓練、2学期の最初に地震と津波を想定した避難訓練、2学期の終わりに地域と交流・連携した防災学習交流会を行い、定期的に防災意識を高めることができた。

【取組内容②】

1年生から9年生までが協力して取り組むことができる縦割り班活動を年2回行うことができた。また、さまざまな行事で生徒中心の活動を行う場をいくつか設定し、児童生徒の良さを引き出すことができた。

【取組内容③】

全学年で系統的にIKUNO未来科の学習に取り組むことができた。9年間を通してキャリアの育成に取り組む学習を通して、一人一人が、将来になりたい自分に見通しをもち、あこがれる自分づくりに向けて、主体的に学びを深めることができた。学校アンケートの「将来の夢や目標をもっていますか。」の質問に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合は、81.6%で、中間反省の80.9%よりも少し高まり、目標の77%以上を上回る結果となった。

次年度への改善点

【取組内容①】

3学期は行事が多く、防災訓練に取り組む日程が取れないので、1学期に1回、2学期に2回、来年度も年3回行う予定である。

【取組内容②】

来年度も1学期と2学期に縦割り班活動を行う予定である。また、さまざまな場面で、生徒会や児童会などを中心に、生徒が自主的に活動できる場面を設定し、児童生徒の良さを引き出していく。

【取組内容③】

今後の「総合的な学習の時間」の運用について調べ、9年間を通じたキャリア育成に取り組む目標を崩さないように、IKUNO未来科の学習に取り組む時間数を再検討する必要がある。

大阪市立義務教育学校生野未来学園
令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | |
|---------------------|------------------------|
| 評価基準 A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力経年調査及び校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童・生徒の割合を 35%以上にする。 ・小学校学力経年及び調査中学生チャレンジテストにおける国語および算数・数学の平均正答率の対全国比・対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。《前期課程》 ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 35%以上にする。《後期課程》 ・学力経年調査及び校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 60%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校の授業はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 85%以上にする。 ・「学校でその日に学習したことを、家庭で自分から進んで復習していますか（宿題は含まない）」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 80%以上にする。 | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>TT の指導や学級を二分割に分けた習熟度授業を実施し、児童生徒の学習意欲を引き出す取り組みを進める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>校内アンケートにおいて、授業についての質問に対し「わかった」と肯定的な回答をする児童生徒の割合を 85%にする。</p> | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>校内研修や研究授業、メンター研修を計画・実施し、教員個々の指導力の向上に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>授業を担当する教員が年間 1 回、研究授業や公開授業に取り組み、学期に 1 回、前期課程と後期課程の教員が相互に授業を参観できる機会を設定する。</p> | B |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標について】

2 学期の校内調査では、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合は 41.1%となり、目標の 35%を超える結果になった。児童生徒が授業の中で自信を持って発言したり、積極的に発言しながら話し合ったりする活動をこれからも工夫していき、自己肯定を育むようにしていく。

2 学期の校内調査では、「学校の授業はよく分かりますか」の質問に肯定的に回答する児童生徒が目標の 85%を超えて 88.0%であった。児童生徒が自ら進んで授業に参加し、課題に前向きに取り組むことで、『わかった』と自覚できる授業内容をこれからも実践していく。

2 学期の校内調査では、「学校でその日に学習したことを、家庭で自分から進んで復習していますか（宿題は含まない）」の質問に肯定的に回答する児童生徒が目標の 80%より大幅に少ない 60.8%と大きく下回ってしまった。家庭学習として宿題はできている児童生徒は多いが復習を主とした自主学习まで及んでいない現状である。家庭学習が宿題だけではないことを意識させながら復習の大切さを理解させ、自主的に学習することの楽しさを感じさせられるように取り組みを図っていく必要がある。

【取組内容①】

国語科、算数・数学科、英語科、社会科で習熟度別少人数指導や TT 指導による児童生徒への細やかな対応を行うことで学習内容の理解を深めることができた。その結果、校内アンケート「学校の授業がわかりますか」の質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は 88.0%となり目標の 85.0%を上回る結果となった。

また、校内アンケートで「タブレットを使用した学習がわかりやすい」と回答している児童生徒が 88%となっていることから、授業での効果的なタブレット活用も目標達成の要因の一つとなっている。

【取組内容②】

各教科の基礎基本の定着をめざし、各教科での研究活動に取り組むことができた。年度当初に設定した各教科の重点目標に沿って、指導方法を交流したり、効果的な指導について話し合ったりしながら、9 学年の積み上げを意識した指導について考えることができた。各教科で年間 1 回以上の研究授業を行うことができ、相互に参観しながらよりよい授業づくりに向けた話し合いをすることができた。

また、計画的にメンター研修を実施し、外部講師の助言を得ながら若手教員の指導力の向上に努めることができた。

次年度への改善点

【取組内容①】

個に応じた指導や習熟度別少人数学習による成果を踏まえ、児童生徒が学習に意欲的に取り組み、学習内容の理解が深まる質の高い授業実践を継続していく必要がある。

また、各学年での授業をより系統立てて行うことができるように、教科会の場を通して指導内容・指導方法を密に共有することも必要である。

【取組内容②】

今年度は、各教科で指導案の形式も考えないといけなかったのが、年に 1 回以上の研究授業をすることにしたが、来年度は、年 2 回以上の研究授業をすることにし、1 回目の授業の課題点をもとに、部会のメンバーでより良い授業展開と指導について話し合い、みんなで 2 回目の授業づくりを行って研究授業ができるようにする。

大阪市立義務教育学校生野未来学園
令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | |
|---------------------|------------------------|
| 評価基準 A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ・デジタル教材を活用した朝学習を週3回実施する。 ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ・デジタル教材を活用した朝学習を週3回実施する。 ・年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を72%以上にする。 ・大学等と連携し、教職員の資質向上のため外部講師を招き研修会を開く。 | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向6、教育DXの推進】</p> <p>デジタル教材（学習者用端末）を活用した授業の計画、児童生徒が自主的に学習者用端末を活用した取り組みを進める。</p> <hr/> <p>指標 デジタル教材（学習者用端末）を活用した学習を週3回以上実施する。</p> | A |
| <p>取組内容②【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <p>本にふれる機会を増やし、読書習慣を身につける。また、読書好きな児童生徒が増えるように読書紹介等の取り組みを進める。</p> <hr/> <p>指標 校内アンケート「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を72%以上にする。</p> | B |
| <p>取組内容③【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>大学等と連携し、教職員の資質向上のため外部講師を招き研修会を開く。</p> <hr/> <p>指標 年間3回以上外部講師を招聘した研修会を行う。</p> | B |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標について】

児童生徒の学力及び ICT 活用力の向上に向けて、授業の中で学習者用端末を活用する機会を増やしてきた、単に活用時間を増やすだけではなく、授業への興味関心を引き付けることや、より効果的で効率的な授業になるように、教員が試行錯誤しながらも前向きに取り組んできた。その甲斐もあり、「タブレットを使用して学習していますか」の質問に対して、89%が活用できていると答えている。また、「タブレットを使った授業はわかりやすいですか」の質問に対して、88%がわかりやすいと答えている。今後も、目標の達成に向けて、より良い使い方を模索していく。

加えて、研究校として週 3 回実施している ICT を活用した最新のアプリを活用した語彙力を育成するための学習や、読書活動の充実により児童生徒の読解力の向上に向けて取り組みを進めている。

また、児童生徒をより良く指導していくために、教職員を対象とした研修会は計画以上の回数を実施することができた。今後は、年間を見通して、より計画的に研修会を実施していきたいと考えている。

【取組内容①】

デジタル教材（学習者用端末）として、前期では『ミム』、後期では『マイクロステップスタディ』を週 3 回実施した。またそれだけに留まらず、授業の中で活用したり、課題を出して家で使用するようにしたり、校外学習で校外に持ち出して使用するなど、様々な学びの機会を活用するようになってきていた。

【取組内容②】

年度当初、校内アンケート「読書は好きですか」の項目についての目標は 72%としていた。2 学期のアンケートでは、1・2 年 77%、3～6 年 67%、7～9 年 50%という結果であった。各学年の取り組みとして、学年に応じて教室や校内図書館で読み聞かせや本の紹介を行うことにより、紹介された本などを読む児童生徒がいた。

【取組内容③】

研究校として取り組んでいる ICT を活用した学力向上の取り組みをより効果的に進める上で、岡山大学から講師を招き「ことばの力」研修を実施した。また、大阪教育大学に引き続き協力いただいて PBS 研修を実施し、9 年間を通したより良い集団作りに努めた。その他、生活指導におけるトラブルの未然防止や性に対する理解を深める研修など、教職員の資質向上と児童生徒の学力の向上及び安心安全な体制づくりに努めた。

次年度への改善点

【取組内容①】

学習者用端末が新しくなったことにより、端末の利便性が明らかに向上した。次年度も学習効果や利便性を考えながら様々な場面で学習者用端末の活用を模索し、情報共有しながら全体で利用を推進していく。

【取組内容②】

教室や校内図書館での読み聞かせを充実させるとともに、本を読むことで語彙や知識が豊かになること知り、本を読む楽しさが味わえるようにする。また、読書週間では、「学年だより」などを通して、家庭でも読書を楽しむことを啓発したい。

【取組内容③】

多様な視点から研修会を実施することができたが、学校の教育目標に沿った優先順位に基づいた組織的な研修運営はできなかった。教職員の多忙化が進む中、より効果的で効率的な研修の計画的な実施を検討する必要がある。

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立義務教育学校生野未来学園 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の自己評価結果は概ね妥当であるが、もう少し高く評価してもよいのではないかと
開校から4年目が経過し、地域の協力と教職員の取り組みにより、運営に関する計画や学
校アンケート結果に数値としても表れてきている。
今後も引き続き、9年間を通した学力と体力の向上のため、また児童生徒が楽しんで学校生
活を過ごすことができるよう、工夫改善を重ねて努力を続けてほしい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

| |
|--|
| 年度目標：【安全・安心な教育の推進】 |
| 全市共通目標（小・中学校） <ul style="list-style-type: none">・学力経年調査及び校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童・生徒の割合を81%以上にする。→95.7%・令和7年度の校内調査における、前年度の不登校児童・生徒の改善の割合を増加させる。→大きく変わらず |
| 学校園の年度目標 <ul style="list-style-type: none">・異学年交流や少人数によるグループ活動をより多く取り入れて、集団における自分の個性や良さを再認識することにより、校内調査における「学校が楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答する児童・生徒の割合を85%以上にする。→86.4%・「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を77%以上にする。→81.6% |
| 年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】 |
| 全市共通目標（小・中学校） <ul style="list-style-type: none">・学力経年調査及び校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童・生徒の割合を35%以上にする。→41.1%・小学校学力経年及び調査中学生チャレンジテストにおける国語および算数・数学の平均正答率の対全国比・対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。→未達・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。《前期課程》→77.5%・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を35%以上にする。《後期課程》→38.2%・学力経年調査及び校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60%以上にする。→61.2% |

学校園の年度目標

- ・「学校の授業はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 85%以上にする。→88%
- ・「学校でその日に学習したことを、家庭で自分から進んで復習していますか（宿題は含まない）」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 80%以上にする。→60.8%

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。→未達
- ・デジタル教材を活用した朝学習を週 3 回実施する。→達成
- ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%以上にする。→89%

学校園の年度目標

- ・年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 72%以上にする。→65.8%
- ・大学等と連携し、教職員の資質向上のため外部講師を招き研修会を開く。→達成

3 今後の学校園の運営についての意見

学校教育活動の現状が、各種アンケート結果を反映させた運営の計画から伝わってきた。今後も引き続き、地域とのつながりを大切にしながら、児童生徒が楽しく学校生活を過ごせるように、指導を続けてほしい。また、ICT 教育推進の重要性は理解できるが、文字を書いたり、読書したり、友達や教員と直接交流するなどの従来型の教育とのバランスを考えた教育活動を展開してほしい。